

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272300641		
法人名	医療法人慶成会		
事業所名	グループホームすごう		
所在地	青森県南津軽郡藤崎町大字葛野字新岡元56-1		
自己評価作成日	平成30年9月1日	評価結果市町村受理日	平成30年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成30年10月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・環境に恵まれ、敷地も広く、安全に前庭の散歩を楽しむことができる。 ・母屋に和室を設けており、居室と自由に行き来ができ、自宅にいたような雰囲気を楽しむほか、行事も行うことができる。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは自然に恵まれた場所にあり、岩木山と周囲の田畑から四季折々の季節を感じることができる。また、国道沿いに立地しているため、交通の便も良い。 和風の民家を母屋として自由に行き来でき、行事の時に使う広い和室は、自宅の座敷のように懐かしく、利用者に喜ばれている。 職員はホーム独自の理念のもと、地域と関わりながら、利用者が自分らしく暮らせるように日々、サービス提供に取り組んでいる。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印					
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと				
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない				
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように				
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度				
			3. たまにある				3. たまに				
			4. ほとんどない				4. ほとんどない				
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない				
			4. ほとんどいない				4. 全くいない				
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない				
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が				
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない				
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が								
			2. 利用者の2/3くらいが								
			3. 利用者の1/3くらいが								
			4. ほとんどいない								

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は全職員で作成し、申し送り時に日々のサービスに反映させているか、確認をしている。	理念は玄関や事務室に提示し、毎朝ユニット合同の申し送り時に唱和して、全職員で共有化する取り組みを行っており、日々のサービス提供に反映させるように努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として町内会に加入している。また、夏祭りや敬老会等、ホームの行事を通して地域と交流を図っている。	ホームの行事や夏祭り、敬老会等を町内の回覧版でお知らせしており、町の行事等の際は参加の誘いがあり、席や駐車場を確保してくれている。また、敬老会では近隣の保育園児の訪問がある等、地域の一員として日常的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	福祉避難所として指定されているため、ベッドや非常食を準備しており、災害時の受け入れ体制ができています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議ではホームからの情報や報告等に対して意見をいただいているほか、自己評価及び外部評価の結果を報告している。	2ヶ月に1回、偶数月に開催しており、会議では報告や情報交換を行い、委員の意見を引き出し、改善に繋げる工夫をしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には町職員や地域包括支援センター職員に出席いただき、ホームの実情等を報告している。	運営推進会議には町担当課職員や地域包括センターの職員が出席しており、ホームの実情を報告して、アドバイスをいただいている。また、必要に応じて他の課との連携に努め、協力関係を築く取り組みを行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修やホーム内の勉強会のほか、身体拘束廃止に関する指針も掲げ、全職員が理解し、拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束に関するマニュアルや「身体拘束廃止に関する指針」を作成・整備しており、研修やホーム内の勉強会等で理解を深めている。また、利用者の無断外出時に備え、近隣住民から協力を得られるように働きかけを行う等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して虐待に関する理解を深めている。また、職員がお互いに気がついた事を話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会の協力を得て内部研修を行い、制度の理解に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所契約時には、ホームの方針や対応等を詳しく説明している。利用料の改正等はその都度、説明し、同意をいただいている。また、契約解約時にも、利用者が不安にならないように配慮して説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族が意見・要望を出せることを説明している。また、家族の面会時に遠慮なく、何でも話せる雰囲気づくりに努めている。	家族等が意見や要望を外部に出せることを説明しており、面会時や日々のコミュニケーションから意見や要望等を出しやすいように働きかけている。また、出された要望や苦情等はホームの運営に反映させるように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、全体会議にて職員から意見が出され、ホームの運営に反映できるようにしている。	日々の申し送りや連絡ノート、全体会議、介護計画作成時のカンファレンス等、機会ある毎に意見交換を行っており、職員の意見等をホームの運営に反映できるように取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場環境は労働基準法に基づく就業規則により、遵守している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画を作成し、職員個々の経験に応じた研修を受講して、伝達研修も行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者と2ヶ月に1回、意見交換会を行っているほか、お互いのホームを訪問する等の交流を図っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期面談では利用者の心身の状態や思い・ニーズを理解し、受け止め、安心感を得られるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用に関する相談があった時には、家族と利用者から希望やニーズを伺い、ホームとして対応ができるか話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者に何が必要であるかを見極め、必要な支援を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を共に支え合うよう、家族のような感覚で接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との情報交換を通して、利用者の思いを共有し、共に支えていく関係を築いていけるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所以前から関わりのある友人との関係も、できる限り継続できるように支援している。	入所時のアセスメントや家族等から馴染みの人や場所について情報を得ており、関係が途切れないように機会を作っている。また、電話や手紙等の支援を行っているほか、ホームとしてできる範囲で利用者の希望に沿えるように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者が孤立することがないように、利用者同士の関係性を把握し、日々の生活の中でお互いが支え合っているように働きかけている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設に移る場合は、利用者のこれまでの生活の状況等を情報提供している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で利用者の行動等から、利用者の思いをできるだけ把握するように努めている。	日々の関わりの中で、利用者の思いや意向を聞き出すように努めており、表出できない場合は言動から利用者本位に検討したり、家族から情報を得る等して把握に努め、職員間で情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報等で、これまでの生活歴や個性等を把握して支援に活かしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で利用者個々の生活リズムを把握し、体調の変化にも注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は全職員でカンファレンスを行い、作成している。また、利用者の思いのみならず、家族の意向も反映するように努めている。	介護計画作成時は利用者や家族等から意向や希望等を聞き、全職員の意見や気づき、月末に行うモニタリングを基にカンファレンスで話し合い、現状に沿った介護計画の作成を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々の介護計画は、日常の様子や利用者の言葉等を記録し、職員間で情報を共有した上で作成している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診介助や外出支援等は、利用者のニーズに柔軟に対応して実施している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議やホームの行事、災害時の対応として、民生委員や町内会、消防署等へ協力をお願いしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	今までのかかりつけ医を主治医として、継続して受診できる環境を整えている。また、受診は職員が同行し、結果等は家族に報告している。	入所時に受療状況を把握しており、利用者や家族等が希望するかかりつけ医への受診等、適切な医療を受けられるように支援を行っている。また、家族への報告方法や情報の共有等については、納得を得ている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は利用者の健康管理に努めている。また、夜間における緊急時の対応方法も整備している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には早期退院に向けて、関係者と話し合いをしている。また、入院中は状況を確認しながら職員ができるだけ面会するようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ホームの方針として、ターミナルケアは実施していないことを入所契約時に説明している。	ホームの方針として、ターミナルケアは実施していないことを入所契約時に説明しており、日常的な健康管理や急変時の対応については、家族等と随時、話し合いながら納得のいく支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ほとんどの職員が救急救命の研修を受講している。また、緊急時マニュアルに従って対応できるように、日々確認を行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署に連絡・報告を行った上で、年2回の消防訓練と水害時を想定した避難訓練を実施している。また、災害発生時に備え、3日分程度の食料や飲料水を確保している。	火災発生時の具体的な避難誘導策を作成し、年2回避難訓練を行い、近隣住民には訓練を見学してもらって意見を聞く等、協力体制の整備に努めている。また、町水害予防対策計画に基づき、水害の訓練も実施し、いざという時に適切な避難誘導ができるように取り組んでいる。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員には採用時に個人情報の守秘義務に関しての誓約書の提出を求めている。また、排泄の失敗等にはさりげなく声がけをし、個室にて対応するようにしている。	利用者の言動は否定や拒否をしないように話を聞き、言葉づかいに注意している。また、排泄介助時には特に利用者の誇りやプライバシーを損ねないように対応しており、職員の不適切な言動にはその都度、注意し合うように努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者個々の状況に合わせ、自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れが決まっている時以外は、状況を見ながら、できるだけ利用者の希望に沿えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者のこだわりを大切にして、実現できるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が苦手な食べ物や食べられない物は別な献立にする等、食事を楽しんでもらえるように工夫している。	栄養士が利用者の希望や好み、苦手な食べ物を把握し、刻み食やとろみ、代替食、禁忌食品に配慮して献立を作成している。また、テーブル拭き等、できる限り利用者と一緒に食事の準備等を行い、食事を楽しんでもらえるように工夫している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は栄養士が作成しており、摂取カロリーや水分量を把握し、記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	必要に応じて義歯の洗浄や消毒、管理等の対応をしているほか、食後のうがいを声かけにて促している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	利用者個々の排泄パターンを把握し、トイレ誘導を行っている。失敗時には、プライバシーに配慮し、居室で着替えをしていただいている。	利用者個々の排泄パターンを把握して、トイレ誘導を行っており、失禁時にはプライバシーに配慮した対応を行っている。また、便秘についての健康管理にも努めており、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や軽い運動を促しているほか、必要に応じて下剤を使用する等、利用者個々に応じた対応を心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴する曜日は決めているが、利用者個々の入浴習慣を把握して、楽しんで入浴できるように支援している。	週2回の入浴を基本としている。日々の会話や家族等から情報を得て、利用者の希望等を把握しており、利用者の習慣等にも配慮しながら、入浴を楽しんでもらえるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	主治医より眠剤を処方されている方もいるが、日中はできるだけ体を動かしていただき、良眠できるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	食後に利用者へ手渡し、服用していただき、職員が確認をしている。また、処方内容の変更時には、申し送り時に職員間で共有し、症状の変化に留意している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の得意分野で役割を持ってもらっている。また、趣味を楽しめるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	夏期は前庭の散歩を日課にしているほか、時にはドライブも取り入れて、利用者の気分転換を図っている。	日常的に散歩をしており、その日の希望により随時、買い物やドライブを取り入れ、外に出かけられるように支援しており、利用者の楽しみや気分転換に繋がるように支援している。また、墓参り等は家族に協力を求めながら、出かけられるように支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自販機でジュースを購入できるよう、少額の金銭は所持していただいている。預り金は会計担当者が利用者個々の出納帳に記入し、定期的に家族へ内容を確認していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用したい方には番号を押す支援を行っているほか、手紙を出したい方には切手を貼って投函する等の支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は家庭的な雰囲気を感じられるように心がけ、飾りつけはシンプルにしている。	共用スペースを「サロン」と呼んでおり、利用者が集まってくつろげる空間となっている。また、季節を感じられる飾りつけも行っており、家庭的な雰囲気で利用者が心地良く過ごせるように工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	中庭や外の景色が見えるように廊下の途中にソファを置く等、静かに過ごせる空間作りに努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ち込む方やシンプルが好みの方等、利用者個々の好みに合わせた居室づくりを行っている。	馴染みの物を持って来てもらえるように家族等へ働きかけており、位牌や写真、裁縫箱、掛け軸、湯呑等を持って来ている。利用者個々の好みに合わせて、居心地良く過ごせるような居室づくりを支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者個々に合わせて目印を付け、混乱のないようにしている。		